

令和6年度(2024年度)北海道室蘭聾学校学校運営協議会 熟議内容

(学校評価〔外部評価〕)

1 地域との繋がりについて

(1) 教育資源の活用について

学校は、自校の課題について外部に相談することは、抵抗があるかもしれない。しかし、現在は地域と学校が手を取り合って進めていく時代となっている。本校においても、外部に助けを求めたいことや抱えている課題等について相談してもらえると何か手助けできることがあるかもしれない。

(2) 地域の学校との交流及び共同学習について

小学部の交流校との交流学习については、交流校の子供たちにもよい取組になっていると聞いている。本校との交流は、他の学校ではなかなか取り組むことのできない貴重な経験となっている。本校の子供たちにとっても相手校の子供にとっても継続すべき取組と思う。

2 校区内の支援体制について

(1) 校区内における聴覚障がい教育の専門性について

聴覚障がい者とのコミュニケーションは、様々な手段を用いて行うことが効率的と考える。地域の意見をくみ上げ支援を継続する体制を整えることが必要である。一人一人の障がいの程度に応じた教育や寄宿舎生活などについても、保護者が理解できれば安心して学校に任せられると考える。

(2) 苫小牧市以東の校区について

本校は、胆振管内と日高管内全域を校区としている。苫小牧から東に位置する日高管内にとって本校は、地理的に遠く、本校の取組について情報が入りにくい環境にあると思う。そのため情報がなく、本校の活動を知らない方がいると思う。

聴覚障がい教育のセンター的機能を発揮している本校について、日高管内の人々に知ってもらえるような情報発信が必要である。また、地域の状況について詳しい方に学校運営協議会に参加してもらい、地域住民の立場から助言を求めることが有効ではないか。

(3) 苫小牧市における相談拠点について

日高管内から聾学校のある室蘭は地理的に遠く、来校するのは非常に大変状況であることは理解できる。日胆地区の中間地点にある苫小牧に相談拠点を構えて、校区をサポートできるようにすることができないか。

3 情報発信について

(1) 苫小牧市以東に向けて

地理的に遠方にある日高管内において本校の教育活動や乳幼児療育事業の状況について、情報が入りにくい環境にある。2年に1度、関係機関訪問として日高管内の保健センターや発達支援センターなどで本校の取組の説明や地域の情報収集を行っている。しかし、地域の担当者が短期間で変わるなどなかなか情報が浸透しない状況にある。このため、できるだけ期間を空けないで継続し啓蒙することが大切であると思う。

(2) SNSの活用について

聾学校にHPがあるということや地域の方々がそもそも本校の存在を知らないこともあるのではない。また、関係機関訪問にも限界があるので本校の取組について、SNSを活用し本校の教育活動等について情報発信し、手軽に本校の情報を手に入れられるよう情報発信の在り方について検討してはどうか。

(3) 普段の学習状況について

学校の保護者が学校の様子について、なかなか知る機会がない。子供に学校での取組を聞いても上手く説明できないことが多く、その様子がなかなか掴みきれない。動画共有サービス等を活用し、短編の映像を見ることができたら、子供たちの学校での様子を保護者が知ることができると思う。